



会長
沼田 好道

白陵同窓会

会員の皆様方におかれましては、いよいよご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、同窓会活動に格別のお力添えを賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、お蔭様をもちまして、母校の校舎建替工事は順調に進み、今春、第一校舎が完成し、昨春完成した第二校舎と連なりました。校舎新築建替の大普請も二年の歳月を経て目出度く落成の運びとなりましたが、最近の異常な程の建設資材の高騰や中国四川省大地震で学校建築における耐震の重要性が問われている報道を見るにつけ、この度の建て替えは正に時機を得た学園当局の大英断であったと感服しております。

懐かしの学舎が取り壊され、新しい校舎に建て替えられると聞いたときには、幾分寂しい気持ちになりましたが、三木正理事長が卒業生の想いを斟酌されて、新校舎の外観は旧校舎と大変よく似たデザインを採用されたことにより、裏山を背景とした校舎全景は昔と変わっていない錯覚に陥ります。しかし、中に二歩入ると内部は旧校舎の倍以上の大きさと、明るく広々とした教室が機能的に配置され、廊下や昇降口にも余裕があり内部の様相は一変しています。他校に類を見ない緑豊かな自然と見事に調和したこの新校舎は、将来にわたつて、きつと白陵生が誇らしく感じるこの出来る学舎となること

でしょう。

本会では、この度の校舎竣工に際し、事業費の一部に役立てていただくべく、本年三月、学園当局へ金一〇〇〇万円を贈呈させていただきました。ここに会員の皆様へ謹んでご報告申し上げます。本会といたしましては、母校飛躍の礎となるこの一大事業に際し、積極的にその二翼を担うべく、昨年より会員の皆様にご寄付のお願いを行ってまいりました。その結果、本年七月末現在で、延四〇二名の方々より、約一〇五〇万円の貴重なご寄付を頂戴することができました。しかし、当初の目標額である五、〇〇〇万円に達していない状況に鑑み、定例役員会で協議の結果、苦しい財政事情の中で一〇億円もの建設資金を工面された学園の負担を些かなりともお助けしたいとの思いから、引き続き寄付金募集を継続させていただきます。つきましては、各界で活躍されている卒業生のお一人おひとりから力強いご支援を頂戴して、母校支援の輪を大きく広げていただきたいと念願しております。会員の皆様には、幾度にもわたり誠に恐縮に存じますが、まだお申し込みでない方は、事情ご賢察の上更なるご理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。心より重ねてお願い申し上げます。なお、既にご芳志をいただいております方にも失礼ながら振込用紙を同封しております。点、なにとぞご容赦ご寛容くださいますようお願いいたします。

最後にになりましたが、私儀、この度、評議員会の推薦を受け、四月より三木学園理事に就任いたしました。非才微力の身ではございますが全力を傾注し学園の発展に尽くしてまいります。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

母校飛翔の礎となる新校舎建築に 今こそ同窓生は熱いご支援を

校舎建替 寄付金募集要項

本寄付金募集は、白陵会が白陵会員を対象として行います。

目標額

5千万円

募 金

1口1万円

なるべく複数口のご協力をお願いします。ただし、1口未満でもありがたくお受けします。

募集期間

平成18年10月から平成20年9月までの2年間としていましたが、引き続き、募集期間を定めずに続行することにいたしました。

申込方法

同封の郵便払込取扱票によりお払い込みください。

口座番号：神戸01160-9-45040 加入者名：白陵同窓会

※領収書は郵便局の郵便払込金受領書をもってかえさせていただきますのでご了承ください。

※この寄付金は減税措置を受けることができます。

個人がその年に支出した寄付金の額が5千円を超える場合には、その超えた金額について、その年の課税所得金額から控除されます。但し、寄付金額が年間所得の40%を上回る場合は40%が限度となります。

寄付金控除額=寄付金額-5千円

減税措置を受ける手続きは寄付された翌年の確定申告で行いますが、その際、領収書及び特定公益増進法人であることの証明書(写)が必要です。この証明书写が必要な方は郵便局払込取扱票の通信欄に証明書必要とお書き添えください。



理事長
三木 一正

新校舎からの出発

——ご挨拶にかえて——

同窓会からもいろいろとご協力をいただいた校舎新築建替工事も、昨年の高校棟に続き本年三月には中学棟が完成、慌ただしいなか周辺整備も終わり、七月一日無事に竣工式を執り行うことができました。当日は会長を始めとする役員の方々のほか、兵庫県を始め地元高砂市長、姫路市長も来賓としてご出席いただきご祝辞を頂戴することができました。また三年前に地鎮祭で「地固めの儀」として四股を踏んでくれた日本相撲協会の前頭鶴竜関も井筒親方と共に出席、加えて生徒の保護者である二期生の北口寛人氏が明石市長の肩書きで、これまた保護者の松本剛明氏が衆議院議員として来賓席に顔を揃えていただきました。この新校舎を活かして新しい白陵が、如何に建学の精神を忘れず変化に強い教育現場を作っていくか、本年はその第一歩を踏み出す勝負の年でもあります。

この会報が皆様方の手許に届く頃には北京オリンピックも終わっていることでしょうが、日本選手が如何に頑張っても金メダルの数も世界新記録続出の前には歯が立たず、日本新記録が出て前回は後退というのが現状です。ママでも金”と頑張った赤ちゃん、曾て本校へ来てくれた時のあの誠実な人柄、目標を定めて努力することの大切さを生徒に直接熱く語りかけてくれたことが昨日の如く思い起こされますが、それでもあくまで”銅”は”銅”という厳しさがあるのが現実社会の在り姿でありましょう。オリンピックという大きな世界的な催しの前には、高校球児たちの甲子園夏の高校野球も影が薄くなりましたが、それでも頑張る姿への拍手は忘れてはならないものだと思います。赤ちゃんが教えてくれた”試練に立ち向かうもの”にしか神は試練を与えない”の精神で白陵の後輩たちは常に挑戦する気持ちを持ち続けていくべく指導していきたいと考えています。

十一期生の長澤均氏から「東京白陵高校同窓会」の活躍ぶりを知らせてもらいました。全国でこうした動きが起こり、白陵の人脉が津々浦々にまで広がることを願っています。

最後になりましたが、日頃のご協力に感謝するとともに二度是非新校舎見学にお出かけください。卒業生諸兄姉のご健勝とご多幸を心から祈念しております。



校長
吉田 卓

ご挨拶

茹るような猛暑とゲリラ豪雨、地域によっては洪水等々、常態とは異なるこの夏、同窓会の皆様いかが過ごされたでしょうか。

すでにご案内のとおり、去る七月一日には新校舎竣工式を華やかに催すことができ、各界からご参集のご来賓に新しい施設と、新校舎に学ぶ生徒の姿勢を披露することができました。ここに至るまでの同窓会の皆様方の物心両面の厚いご支援に対し、心より感謝申し上げます。

昭和三八年の創立以来四十数年間、その半ばには学園創設者三木省吾先生を失うという悲しみをも一層のバネとして全力で走り続け、相応しい評価を得るところまで成長してまいりました。七月一日の竣工式は教職員と二千名余の在校生が一致して高い目標を設定し、全力走を継続しようという強い意志表明の場でありました。

ところでつい先日、処分しようとした本の中から二十年前（一九八八年）の雑誌「科学朝日」（十年前に廃刊）10月号の記事が目にとまり

ました。「特集 二〇〇八年のオリンピック」と題して、まさに今夏に行われた北京オリンピックの記録やウエア、シューズ等を科学の目で予想しているのです。一九八八年はソウルオリンピックの年で、陸上男子一〇〇mではカール・ルイスをおさえて一位になったベン・ジョンソンがドーピング違反で失格となり、スポーツ界に激震を与えた年でした。その記事の中で、陸上競技の記録の予測値が今日の値とほぼ一致するのも驚きでしたが、競泳の水着が今日とほとんど同じ内容で記述されていることに科学としての洞察力に感心するとともに勇気づけられました。

この雑誌刊行よりさらに遡ると数年、本校二十周年に際して三木省吾先生は「……あらゆる意味で日本一の学校になると私は信じて疑わない」と明言されました。

この言葉は予言ではなく、私達が目標として設定し、自らの力で実現すべく勇往邁進しなければならぬことを示しています。

大きなエネルギーをその中に蓄えることのできるゆとりある新校舎と、限らない広がりを目指す記念モノメント「春暉」を得て、教職員と生徒一同全力走の再スタートをきる所存であります。一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

校舎新築竣工記念式典

平成二十年七月一日開催

平成十八年四月以来、老朽化した校舎を取り壊し、約二年の歳月をかけ、約二十億円の巨費を投じて進められていた新校舎が完成し、七月一日、盛大に竣工式が催されました。式典は、午前十一時より記念棟において開かれ、多数の来賓をはじめ在校生や教職員約一三〇〇人が新校舎竣工を祝い更なる飛躍を祈念しました。白陵会からは会を代表して、沼田好道会長、湖中明憲副会長、天野泰文副会長等が出席し祝意を表しました。



式典は、斎藤興哉副校長の進行で厳粛に始まり、三木二正理事長が式辞で、「思えば、昭和三十八年プレハブ建築の仮校舎で開校した白陵が、その翌年完成したばかりの本校舎に移ってから四十数年、阪神淡路大震災の教訓を生かした安心安全な環境のもと、勉学に励み、新しい教育現場創りを検討するうち、老朽化に加え手狭にもなった校舎の全面的な建替えを

決意するに至った。以来、多くの皆様のご協力を得て、創立以来の伝統を活かしつつ、智的で風格があり、かつ自然環境と相俟った若々しく力ある空間を作り出すことができた。本日の竣工式を、次なる時代への出発の日ととらえ、職員生徒心も新たに一歩たりともつ所に留まることなく、国内外に通用する逞しい人材の育成に鋭意邁進したい。」と力強く述べられました。特別来賓を代表して、兵庫県知事代理榎本輝彦兵庫県企画管理部教育・情報局長、西門義博兵庫県私学総連合会長、登幸人高砂市長、石見利勝姫路市長の四氏より祝辞が寄せられ、洞爺湖サミット前の閣議のためやむなく欠席された地元選出の渡海紀三郎文部科学大臣からは丁寧な祝電が届けられていました。この後、建築元請会社の平錦建設株式会社の延澤忠行代表取締役が三木理事長より感謝状が贈呈され、次いで、生徒代表の渡辺浩行君が、慶詞で「新校舎完成への感謝の気持ちで一杯です。白陵の伝統を大切にして新校舎で新たな伝統を積み重ねるべく学校生活に励みます。」と力強く宣言し、最後に吉田卓校長が謝辞を述べられて約一時間の竣工式典は閉式となりました。

この後、来賓・関係者は、新校舎見学案内された後、新校舎五階の会議室と大教室に特別に設けら

れた祝賀会場に移動し、新校舎の完成を祝いました。祝賀会は川副義文教頭がいつもながらの名司会で和やかに進行されましたが、祝賀会では在校生保護者でもある松本剛明衆議院議員や、卒業生の北口寛人明石市長、石井秀武兵庫県議から、それぞれに白陵と縁の深い方ならではのスピーチが寄せられました。また、地鎮祭で地固めをしていたいただいた大相撲井筒部屋（鶴竜関も井筒親方と共に名古屋の宿舎から駆けつけてくださり、出席者から盛んな声援を受けておられました。祝賀会のトリは沼田白陵会会長が見事に二本締めで締



めくくられ一同、新校舎の門出を心からお祝いしました。帰路、大階段を下りながら、式典に先だって除幕式が執り行われた、シエルピンスキー四面体をモチーフに製作されたモニュメント「春暉」の美しさに驚くと共に、階段越しに見上げる新校舎の威容に改めて深い感激を覚えました。また、この日の出席者には、記念品に添えて全紙一面に新校舎竣工を祝う広告が掲載され

た式典当日の神戸新聞が配布されました。

(広報委員長・下村康夫)

白陵会から学校へ

一、〇〇〇万円寄付、 新校舎完成記念品贈呈

平成二十年三月二十六日に行われた第二校舎竣工式の席上、会員の皆様方から集まった寄付金一、〇〇〇万円を沼田好道白陵会会長より三木二正理事長へ贈呈いたしました。三木理事長からは同窓会からのご厚志を有効に使わせていただきたいとの御礼挨拶をいただきました。本会ではこのたびの校舎新築建替寄付金募集の目標額を五、〇〇〇万円としておりますので、今後も引き続き寄付金募集を行い金額がまとまった段階で贈呈したいと考えております。また、平成二十年六月二十八日に開催された定例役員会の席上、新校舎竣工記念として、沼田会長から吉田校長へ学校側より、「希望のあった」図書館蔵書整理用器材一式(二〇〇万円相当)を贈呈しました。



教育理念に基づいた校舎づくり ~変わったもの・変わらないもの~

Before



全景写真



普通教室内部



After



時計塔



三角公園から見上げた校舎

学舎温故知新

モニュメント完成にそえて

宮崎陽太郎(校内幹事総代・11期生)

七月二十午前九時、モニュメント「春暉」の除幕式が、午前十一時から新校舎記念式典に先立ち始まった。想像していたものと幕の中から現れたものとの差異が、見た瞬間の驚きを制御不能なものにした。単なる数学的な実現物というカテゴリーを超えた「醜態感」。これほど人為的なものがこれほど自然に溶け込むということがあり得るのだろうか。この現実には自分の目と精神が置き去りにされている。一周すると無限通りの形の変化と理解を超えた反射が眼の中に飛び込んでくる。

写真に撮り、残念ながら除幕式にはご欠席の京都大学大学院の立木秀樹准教授にメールとともに送ると、早々のご返事に、

「モニュメントの美しさに心をうたれました。ステンレスの反射で周りの樹木が映って、自然にとけこんで見えます。平面的な冷たさを感じさせません。これを実現された白陵の理事長をはじめとするみなさんのきめ細かな気持ちや温かみがあるまま映し出されている。そんな気がします。ものづくりの職人さんの気持ちも十分にこめられていますね。これは、数学だけしか興味がなく、CGを作った回して満足しているだけの人には味わえない感覚です。これを見ながら、どう光が反射してどこの部分にとちら

の景色が映るのかとか、すぐに分からないうすね。どこの部分に何が映っているとか、光は最高何回内部で反射するとか、考えることはいろいろあるでしょうが、難しくそうではない。そんなことより、ここにあるだけで満足できる「芸術作品」だと思います。」

このモニュメントはフラクタル図形の一つである「シェルピンスキー四面体」をモチーフとしている。正方形に見える3つの方向をもつ四面体の面



白さとフラクタルとしての面白さの両方を併せ持っている。京都大学総合博物館には「シェルピンスキー四面体」が展示されている。立木先生の作品である。ある方向から見ると京都大学の時計台別の方向から見ると京都大学のロゴマークが見える楽しいものである。爾来、先生からはモニュメントに対するアドバイスや、生徒への数学講演も何度かしていたりすることになった。モニュメントとして作るには四面体同士

を頂点でつなぐという実現不可能な事態と対面しなければならぬ。どうしても実現させたいと少年のように眼を輝かせる三木理事長。実際の製作に当たっては、ステンレスの磨きと溶接には世界最高の技術を持つ新潟県燕市の業者「株式会社サクライ」に試行錯誤をさせていただき、吉田校長には燕市まで足を運んでいただく中でやっと出来上がった。ステンレス製のこのようなものは世界に一つとあるまい。

三角形や四面体などのスムーズな幾何図形は自然や日ごろ経験する事柄のラフさとかけ離れた無味乾燥な冷たいものに見える。はたしてそうであらうか。夏の日、青空に大きな入道雲。大まかなモコモコを見ていると、そのなかに中ぐらいのモコモコ、またその中に小さいモコモコ。ラフな図形でも、スケールを小さくとると全体と同じものが含まれていて、そのことが逆に全体のラフさを規定している。フランスの数学者マンデルブロがこのような性質に素直に耳を傾け、フラクタルという概念を導入し統一的な記述を試みたのはわずか三十年ほど前のことである。

白陵の精神は、個々の細部にわたって、全体と同じ構造をもって行き渡るものでなければならぬ。しかもその細部が常に再生され湧き出てくる時、正明閣達の度合いは輝きを増す。反射し変化するものは時空を超えた旧校舎の面影かもしれない。「春暉」との命名は優雅であり、的確である。「春」は「Fons」の「暉」は「fulgor」というラテン語も彩りをそえている。

を頂点でつなぐという実現不可能な事態と対面しなければならぬ。どうしても実現させたいと少年のように眼を輝かせる三木理事長。実際の製作に当たっては、ステンレスの磨きと溶接には世界最高の技術を持つ新潟県燕市の業者「株式会社サクライ」に試行錯誤をさせていただき、吉田校長には燕市まで足を運んでいただく中でやっと出来上がった。ステンレス製のこのようなものは世界に一つとあるまい。

第15回

りょうゆう会ゴルフコンペのご案内

例年多くの同窓生に参加いただき、盛大に開催しております。お誘い合わせのうえ、今年も多数のご参加をお待ちしております。

日時：平成20年10月26日(日) AM9:30集合 AM10:22スタート
場所：白鷺ゴルフクラブ
兵庫県姫路市山田町南山田120 TEL.079-263-3311
申込み：昭和住宅(株)りょうゆう会係 FAX.079-425-7555

これまでの参加者には、後日ご案内を郵送させていただきます。また、白陵会ホームページにも詳細を掲載しております。



白陵会ホームページ

<http://www.hakuryokai.jp>

クラブ活動やOB・OG会に関する最新情報も掲載しております。たまには、覗いてみてください。ご意見ご感想もお待ちしております。

Let's Access!!



三期生
天野 泰文

我が思い出の旧校舎

人は、それぞれが生きた「古き良き時代」を熱心に語りたがるものである。それが青春のページであればあるほど懐かしく思い出されてくるものである。白陵高校に入学した昭和四十年と言えば、東京オリンピックの翌年で、当時の写真もセピア色に変色するような四十年前の古い、古い話である。入学した我々の目の前には昭和三十八年十二月に完成した鉄筋三階建ての「新しい」本館校舎がそびえ立っていた。その年の七月にはその横に鉄筋三階建ての「新しい」別館校舎が完成した。小学、中学のオンボロ木造校舎しか知らない生徒にとってもモダンでオシャレな感じがあったものである。その日、「園長」と呼ばれる人が朝礼で挨拶したが、オシャレとは程遠い人に思えた。建築士のセンスが良かったのかもしれない。三木園長は外貌に似合わず、ロマンチストなところがあつたから、案外園長の要望だったかもしれない。同じ七月に白陵寮が建ち、九月には木造校舎を改造して食堂と音楽室ができた。これは北歐風

の感じのいい建物で、園長はやはりセンスが良かったと思つた。翌年五月には講堂兼体育館が完成し、学校法人三木学園は急ピッチで整備されていったが、反面当時の生徒は運動場の石拾いなどもよくさせられていた。今ある本部棟校舎や白陵会館、武道館、記念棟、櫻並木などまだなかったが、在学中に二応学校の体勢が整つたように思える。この校舎、その真ん中に位置した時計塔こそ、我が「古き良き時代」であつた白陵時代のシンボルとして生き続けてきたのである。我々は、この校舎で、園長の授業を受け、叱られ、ドツかれ、その学識に啞然とし、受験に関係のない趣味の英語を教えられた。園長のいないところでは、居眠りをし、早弁をとり、カニンングしたりした。休憩時間は、ふざけあい、喧嘩をし、友情を感じ、恋を語り、ある時は失恋し、ある時は友に勇気づけられ、そして一部の学友を除いて、みんな卒業していった。これら幾多の「思い出」を胸に抱いて、今では我々には死語に近い「希望」「未来」という言葉を両腕に抱え、巣立っていった。どんな建物も時を経れば、当然古くなり、朽ちてゆくか、取り壊される運命にある。この「新しい」校舎も、多くの卒業生をあたたく送り出してきたが（失意のうちには他校に去つた友もいる）、築後四十四年の歳月

は「老朽化」、「無耐震構造」という批判に曝され、ついにその役割を終えるときが来たのであつた。我が「古き良き時代」のシンボルは、平成十八年解体され、この世から完全に消え去ってしまった。この古い校舎は、重要文化財の指定がないので、我々がいつか地上からいなくなるように、いつかなくなる定めにあるが、その早すぎる取り壊しに、一抹の寂しさを覚えるのは私ひとりではないであらう。

ところで、本会報で紹介されているように「新しい」第三校舎は鉄筋五階建て、第二校舎も鉄筋四階建て、「旧」校舎よりひとまわり大きくなっている。嬉しいことに外観が「旧」校舎のイメージや雰囲気を引き継ぎ、更にグレードアップされた素敵な建物になっており、亡き園長もきつと満足されていると思われる。個人的にも母校に対する我が青春のメルヘンチックな郷愁が残る新校舎となつていることに対して、三木三正理事長はじめ学校関係者に感謝すると共にその竣工を心よりお祝ひします。なによりもこの「新しい学び舎」が、今の、そしてこれからの在校生の数十年後の「古き良き時代」の象徴となることを期待して、旧校舎の鎮魂並びに新校舎へのはなむけといたします。

▼▼▼ 講演者一覧 ▼▼▼

講師名	職名	講演テーマ
天野泰文 (3期生)	弁護士	法律家への道
松浦清隆 (7期生)	北海道大学大学院教授	大学での工学教育と研究-人間の未来と地球環境-
大村直人 (16期生)・山崎健司 (38期生)	神戸大学大学院教授・研究生	これも化学? -化学装置内の“流れ”を見る
島 扶美 (20期生)	神戸大学大学院医学博士	仕事を運びそれを続けること~臨床医から基礎医学の研究者へ~
網井秀樹 (21期生)	神戸大学大学院准教授	有機化学ワールド: くらしに役立つ有機化合物
山田泰正 (25期生)	味覚糖株式会社 代表取締役専務	経営という仕事
古本 強 (25期生)	広島大学大学院准教授	植物学の最先端-教科書を疑うところからすべてが始まる
岸本 健 (34期生)	大阪大学大学院博士課程	サルの研究~乳幼児から人間を考える~
内川 治 (育友会副会長)	武田薬品医療化学本部化学研究所	製薬会社の研究室とは? -世界と競う新薬開発のドラマ-

開催状況
「土曜サロン」
学校では、進路指導部と生徒会が中心となつて、昨年の秋より毎週土曜日の放課後に様々な分野で活躍されている卒業生や保護者の方々に講師に招いて、「土曜サロン」と銘打った講演懇話会を開催されています。この企画は、生徒達が進路を考える機会となつると共に、白陵の人材ネットワークの構築に大いに役立つと考えています。

平成20年 大学入試合格者数

国公立大学					
大学名	16年	17年	18年	19年	20年
東京大	32	21	24	24	19
京都大	24	14	22	18	15
大阪大	28	14	8	12	25
神戸大	21	21	14	15	19
北海道大	6	4	5	5	7
東北大	2	1			2
一橋大	5	4	6	8	3
筑波大	1	2	1	2	1
横浜国立大	2		5	3	1
名古屋大	2	2		1	3
岡山大	18	7	4	7	6
広島大	2	4	1	3	3
九州大	1			1	1
大阪市立大	4		3	4	3
大阪府立大	9	4	6	3	9
その他	61	48	46	58	44
合格者計 (内医学部医学科)	218 (42)	146 (37)	145 (32)	164 (40)	161 (25)

私立大学					
大学名	16年	17年	18年	19年	20年
早稲田大	33	22	21	31	38
慶應義塾大	42	21	13	25	31
上智大	1	1	1	2	8
中央大	16	8	7	7	12
東京理科大	9	4	13	8	3
関西学院大	30	23	27	19	29
関西大	16	9	15	5	9
同志社大	23	12	20	30	34
立命館大	38	27	34	31	28
近畿大	4	2	7	7	4
大阪医科大	2	3	4	4	4
兵庫医科大	2	3	7	3	7
京都薬科大	2	4	6	3	5
神戸薬科大	6	10	7	9	5
その他	48	47	54	41	41
合格者計 (内医学部医学科)	272 (10)	196 (18)	236 (23)	225 (11)	258 (26)
卒業生数	184	176	174	171	181

国公立大学集計に準大学を含む

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	沼田好道	常任幹事(総務)	16	田中正一	常任幹事(HP)	37	亀山信生
副会長	2	湖中明憲	"(総務)	18	秋田直樹	"(総務)	38	上野紘之
"	3	天野泰文	"(総務)	19	牛尾英樹	"(総務)	38	掘素史
"	6	上田喜裕	"(総務)	21	河合恵介	"(総務)	39	猪股久美子
理事(研レ委員長)	3	神吉裕資	"(総務)	22	新田智弘	"(総務)	39	根木厚
"(研レ副委員長)	4	森崎晴知	"(総務)	22	野津康弘	"(総務)	40	赤澤剛
"(研レ)	5	橋本義仁	"(広報)	23	三木健史	"(総務)	40	山本祥子
"(総務)	9	村角伸一	"(総務)	23	中里寛	"(総務)	41	山本梨加
"(総務)	10	吉田達哉	"(総務)	24	奥本光廣	"(総務)	41	脇田直人
"(広報委員長)	10	下村康夫	"(総務)	24	藤原省悟	"(総務)	42	賀川拓哉
"(広報副委員長)	11	志方正彦	"(総務)	25	多根正明	"(HP)	42	宮崎はる香
"(校内幹事総)	11	宮崎陽太郎	"(HP)	26	大西康記	"(総務)	43	片岡寿平
"(HP委員長)	19	尾上尚樹	"(総務)	27	山田将義	"(総務)	43	野瀬彩弥
"(総務)	20	石井秀武	"(総務)	28	柿本晴彦	校内幹事(広報)	1	芳木健憲
"(会計)	10	加藤雅宣	"(総務)	28	松本守弘	"(総務)	2	大内義博
書記(総務)	17	岡野清和	"(HP)	29	岡田康裕	"(総務)	3	長濱憲雄
会計監査(研レ)	6	大崎章快	"(総務)	29	浜田賢太郎	"(総務)	3	黒田洋
"(広報)	15	町田直隆	"(総務)	30	上新貴弘	"(総務)	4	原田正和
常任幹事(広報)	1	伊藤達也	"(総務)	31	酒井雅史	"(総務)	6	福井孝昌
"(総務)	1	芝本真須美	"(総務)	31	木下智晴	"(総務)	11	小紫一貴
"(総務)	1	武田久美子	"(総務)	31	村山稔	"(総務)	12	畔上昇
"(総務)	1	正井和野	"(総務)	32	酒井勇人	"(総務)	12	山口透
"(総務)	4	岸本和男	"(総務)	32	小澤有紀子	"(総務)	12	中村大吾
"(総務)	5	塩崎育男	"(総務)	33	藤井拓郎	"(総務)	14	久保博彦
"(総務)	7	萩本義郎	"(総務)	33	北尾由美子	"(総務)	15	村上幸生
"(総務)	8	山戸敏彦	"(総務)	34	八尾晋典	"(広報)	15	西善弘
"(総務)	8	黒川仁	"(総務)	34	牧野琢丸	顧問(理事長)		三木一正
"(総務)	9	鄭幸男	"(総務)	35	石川美帆	"(校長)		吉田卓
"(研レ)	12	吉野太司	"(総務)	35	阪本覚	"(副校長)		斎藤興哉
"(総務)	13	水田堅	"(総務)	35	安田孝弘	"(教頭)	2	川副義文
"(広報)	13	矢野善人	"(HP)	36	近藤理恵	"(前会長)	1	遠山寛
"(総務)	14	片山安孝	"(HP)	36	杉岡央基	"(前会長)	1	黒坂康夫
"(総務)	14	竹中邦夫	"(総務)	37	伊賀真紀子	"(前会長)	1	黒川芳一

白陵軍団全員集合(16)

～ 東京白陵同窓会発足! ～



平成二十年三月八日(土)に、東京新橋にて同窓会を開催しました。当日は、初めての集まりにもかかわらず、6期から37期まで幅広く三十名ほどの同窓生が出席しました。

会は発起人である11期の山田堅三氏の挨拶で始まり、白陵高校からお招きした宮崎陽太郎先生から土曜サロンの取組みなど最近の学校の様子についてのお話を伺いました。また、吉田校長先生、沼田白陵会会長からのご祝辞をご披露いただきました。続いて、来賓の兵庫県東京事務所長からご挨拶いただき、兵庫県知事、姫路市長からはお祝いのメッセージを頂戴しました。

6期の田代裕氏の乾杯のご発声により懇親会が始まりましたが、出席者の自己紹介では学生生活での厳しくも、懐かしい思い出話が続出しました。

なお、6期の方々は昨年十二月に東京において卒業後初めての同窓会を開催され、同期以外でも集まりたいと丁度話をされていたという事で、今回のタイミングの良さに驚かれています。

お楽しみ福引会の後、宮崎先生の歌唱指導により、東京にて久しぶりの、懐かしい白陵校歌、白陵寮歌の合唱の時間となり、本当にあっという間の二時間が過ぎました。

また、今回は平成二十二年二月二十一日(土)に開催することが決定いたしました。

今回は、東京らしく様々な業種の幅広い世代の方々にお集まりいただくことができました。今後も多くの同窓生が気軽に参加できる会として、また、社会人、学生の方々の同窓生同士の気のおけない交流ができる、楽しい懇談の場となつてゆくように発展していくことができればと考えております。

なお、次回以降も先生たちと再会ができ、親しく近況を語り合う会となるように諸先生方にご出席をお願いしているところです。

東京近郊に在住の方々で、ご出席いただける方は次の連絡先までご連絡願います。今後、詳細が決まり次第、ご案内したいと思っております。また、白陵会のホームページの「同期会の案内・報告」のページにも開催予定を掲載してゆく予定です。

本年七月発行の東京兵庫県人会会報誌『ふるさとひょうご』の「てい談われら同窓生」に、白陵高等学校が取り上げられ、首都圏で活躍中の田代裕氏(6期生)、飯島義雄氏(13期生)、仲嶋克彦氏(20期生)の3氏が思い出を語り合われました。この記事は白陵会ホームページに掲載しています。

【開催に関する連絡先】

長澤 均(11期) 〒112-0012 東京都文京区大塚6-26-8-312 Tel:090-1963-6394
メールアドレス:hitoshi-nagasawa@nifty.com

白陵会News

平成19年度 収支決算報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日 単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	20,814,998	20,814,998	0
会費収入	2,715,000	2,715,000	0
終身会費	2,715,000	2,715,000	0
臨時会費	0	0	0
総会費	0	0	0
会費外収入	5,000	4,782,452	△4,777,452
名簿収入	0	7,600	△7,600
広告収入	0	0	0
利息収入	5,000	34,852	△29,852
雑収入	0	0	0
寄付金	0	4,740,000	△4,740,000
総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	23,534,998	28,312,450	△4,777,452

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	125,000	407,089	△282,089
消耗品費	20,000	0	20,000
印刷費	20,000	75,417	△55,417
通信費	50,000	307,892	△257,892
支払手数料	30,000	23,780	6,220
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	450,000	273,430	176,570
理事会費	200,000	127,750	72,250
役員会費	200,000	118,915	81,085
委員会費	50,000	26,765	23,235
事業費支出	1,510,000	1,498,917	11,083
総会費	0	0	0
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	800,000	827,937	△27,937
ホームページ作成費	210,000	210,000	0
卒業記念品費	350,000	349,650	350
慶弔費	150,000	111,330	38,670
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	150,000	150,000	0
渉外費支出	50,000	0	50,000
予備費支出	500,000	0	500,000
寄付金	0	10,000,000	△10,000,000
小計	2,785,000	12,329,436	△9,544,436
総会積立金	200,000	200,000	0
次年度繰越金	20,549,998	15,783,014	4,766,984
合計	23,534,998	28,312,450	△4,777,452

平成19年度 会務報告

年月日	内容	年月日	内容
19. 6. 6	理事会	19.11.28	定例役員会
19. 7. 21	定例役員会	20. 2. 10	43期生卒業式
19. 8. 4	ホームページ委員会	20. 3. 10	理事会

中学生が姫路寮歌祭に参加
毎年四月に、現在、兵庫県立大学姫路新在家キャンパスの中に現存する旧制姫路高等学校講堂で開催されてきた「姫路寮歌祭」に、今年も白陵から中2・中3の有志四十五名が大内義博中学部長（白陵二期生）に引率されて参加しました。全国各地から集まった旧制高校OB諸氏には、孫のように可愛い中学生が元氣一杯に歌う姫路寮歌の白陵歌が毎年大人気で、「涙が出た。ありがたう。これからもこの歌を歌い続けたい。」と盛大な拍手を浴びたそうです。参加した生徒達も、伝統ある白陵歌を歌うことは、自分たちにとって使命のように感じられると大いに感激し、跡地に建立されている創設者三木省吾先生（二十四回文乙）を初め四千六百余人の名前が刻まれている旧制姫高同窓生銘板を見た女子生徒は、「この人たちが白陵生のルーツかと思ひ、感動と共に深い伝統を感じた。私達はこれからの素晴らしい伝統を受け継いでいかなければならないと思つた。」と語っていました。



『平成二十二年版白陵会名簿』発行は（株）サラトが代行します
五年に一度の白陵会名簿発行の時期が近づいてきました。本会では、今回も名簿作成専門会社である株式会社サラト（本社姫路市）に調査から編集・印刷・発送まで全ての作業を一括して発注することにいたしました。来年十二月の発行に向けて三月頃には（株）サラトが掲載データと購入予約を確認する調査を往復ハガキで行い、あわせて広告や賛助金のお願いをさせていただきます。会員相互の交流と親睦を深めるため、本会の名簿発行事業に格別のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

人事新報社からのダイレクトメールや偽の問い合わせにはご注意ください
昨年、「人事新報社」という会社から卒業生宛に「白陵高等学校同窓名鑑」案内の往復ハガキが再三送られてきたことについては、昨年十一月、注意喚起を促すハガキを差し上げましたとおり、学校並びに白陵会とは全く関係がありませんので、これからも引き続きご注意ください。また、毎年、卒業後一二年経ち丁度二十歳を迎える卒業生の自宅に学校事務室の名を偽って、下宿先や携帯電話番号を聞き出すようです。この件もあわせてご注意ください。

退職教職員紹介
平成20年3月
黒田哲也先生（英語） 10年間
平成10年4月
木村肇介先生（英語） 6年間
平成14年4月
橋本光政先生（理科） 3年間
平成17年4月
ウリアインケルバシモ先生（英語） 3年間
平成17年4月
池田祥子先生（事務） 3年間
平成12年4月～7年5ヶ月

編集後記
新中華美でなく伝統を重んじた重厚で上品な外観、明るく広く快適な教室。今日の白陵に相応しい校舎が完成した。周囲の自然に調和した幾何学的なモニュメント「春暉」が加わり、層趣を増した三角公園から校舎への新しいアプローチとなった緩やかな大階段越しに眺望する校舎群は、卒業生諸氏の概念を根底から覆すロケーションである。最初の校舎は、昭和三十八年、田圃と畑と灌漑用の小さな池が点在する草茫々の荒地の一角に建てられたハイブハウスだった。旧第一（本館）校舎が完成したのは、期生入学後の昭和三十八年十二月、旧第二（別館）校舎完成は昭和四十年七月、爾來四十数年、一期生から四十期生まで約七千名の卒業生と約三百名の旧職員が旧校舎で白陵の礎を築いてきた。来春には旧校舎の面影をとどめた新校舎から四十四期生が巣立ってゆく。この素晴らしい新校舎で、学友後輩諸君には、自己の目標達成は勿論、光輝ある伝統の担い手であることを自覚して日々努力してほしい。〈2号よりA4版に紙面拡大〉

白陵会物語者
十期生 黒川晋氏
十九期生 徳山善一氏
平成二十年四月 逝去
心よりご冥福をお祈りします。